

議員提出議案第7号

墜落死亡事故が連続したオスプレイの飛行停止を求める決議

上記の議案を別紙のとおり会議規則第14条の規定により提出します。

令和6年(2024年)9月20日

提出者 八王子市議会議員 石井宏和

賛成者 八王子市議会議員 綿林夕夏

同 森喜彦

同 望月翔平

同 市川克宏

同 鈴木勇次

八王子市議会議長

鈴木玲央 殿

墜落死亡事故が連続したオスプレイの飛行停止を求める決議

昨年11月29日、鹿児島県屋久島沖で、米軍横田基地所属のC V-22オスプレイ1機が墜落し、搭乗員8名が死亡した。オスプレイは開発段階から何度も墜落事故を起こしており、昨年までの2年間だけで4度目の墜落死亡事故になる。

日本でのオスプレイの墜落事故は、2016年12月に沖縄県名護市沖で、米軍普天間基地所属のMV-22が空中給油中にそのホースと接触して破損し海面で大破した事故以来2度目で、横田基地所属のC V-22の墜落は近隣の市民に大きな衝撃を与えている。

事故の1週間後、昨年12月から、米軍は全てのオスプレイを飛行停止していたが、一定の調査と再発防止策を講じたとして、本年3月以降に飛行を再開し、横田基地所属のC V-22オスプレイも7月から飛行している。事故の原因等の詳細も示さず、基地周辺の自治体にも連絡せず、飛行再開したことに、市民の怒りが広がっている。

ようやく8月の初めに、今回の事故の原因は、片方のプロップローター・ギアボックスが内部の歯車の破断によって機能を失い、その異常を知らせる警告灯の累次にわたる点灯を操縦士が軽視したことにあるなどとする事故調査報告書が公表されたが、肝心の歯車の破断の原因とその対策は示されておらず、事故の再発を防ぐ上で重大な懸念が残る。

八王子市は横田基地の近傍にあり、配備時の約束に反して、市街地での低空飛行訓練を繰り返してきたオスプレイの騒音被害に悩まされ、重大事故を心配されている多くの市民が居住している。

よって、八王子市議会は、アメリカ空軍でも最も事故率が高いオスプレイが、次の重大事故を起こすことを懸念し、全てのオスプレイの飛行停止を強く求めるものである。

以上、決議する。

令和6年（2024年）9月20日

八王子市議会